

教科別研修講座報告

平成 30 年 8 月 1 日 (水)

C021 高等学校国語科研修講座

「国語科に活かす演劇的手法」

講師 東京学芸大学教職大学院 准教授 渡辺 貴裕 氏

〈内容の詳細〉

1 学力調査について (講義)

- ・学力調査の目的やSASA (福井県学力調査) と全国学力調査についての紹介。
- ・大学入試センター共通テストの試行調査とSASAの問題例を取り上げ、これから求められる学力について学ぶ。

2 これからの学びと演劇的手法、体験して理解する演劇的手法 (講義・演習)

- ・詩「おれはかまきり」を声に出しながら身体で表現することで、新たな問いが生まれる過程や読解の深まりを追体験し、探究のツールとしての演劇的手法について学ぶ。
- ・物語「わすれられないおくりもの」の登場人物に寄せ書きを書くことで人物像に迫ったり、漢文『論語』の一節を日常場面に仕立て、グループに分かれて演じたりすることで、自分の感覚を働かせて架空の世界を経験するという手法の利点を学ぶ。
- ・理解したことを表現するのではなく、表現と理の相互循環のなかで深める演劇的手法についての講義を聞く。
- ・戯曲「丁度どれだけ」を役割分担して音読しながら内容に迫る手法について追体験する。
- ・他県の学校で取り入れられている演劇的手法の実践事例について知る。



〈受講者の声〉

・新鮮な学びが多く、教育的価値の高いもの、実践的なもの、創造的意欲を喚起されるものなど、有意義な研修内容でした。

- ・ワークショップが多彩にとりいれられ、段階的、実感的に演劇的手法の国語教育の中での可能性と有効性を理解できました。
- ・意見や発表をしやすい「空間」を教師がどのように提供するかがとても大切だと再確認できました。実際に身体を動かして表現することで新たな問いが生まれることを実感できたので、ぜひ授業で実践したいです。
- ・頭と身体を動かしながら学ぶことができ、座学と違って印象に残りました。あっという間でした。
- ・固くなっている参加者の様子を感じ取り、参加者のペースで研修を進めて下さったので、リラックスして想像力を膨らませながら取り組みました。